

幼保連携型認定こども園 西神戸 YMCA 保育園 11 月 えんだより

11 月聖句：「地はお造りになったものに満ちている。」

<詩編 104 篇 24 節>

ようやく涼しい秋が来たと思いきや、朝晩は寒く、日中は汗ばむ陽気の日もあります。園外に行く機会が夏に比べて増え、自由に身体を動かす機会がこれからも増えていくことでしょう。子ども達にはできるだけ、身近な草花や太陽、白い雲が浮かぶ青空の元で自然を体感できる時間と空間を増やしていきたいと思います。

さて、数年前の論文に、20 世紀の初めには地球上の道路や建物等、人が人工的に造った物の量は、全生物量の 3% に過ぎなかったのですが、約 120 年後の 2020 年には地球上の人工物の量は、全生物量を凌ぐといわれています。今も起きている戦争や経済危機等の世界的な出来事に左右されますが、このままの状況が続くと 2040 年には、地球上の生物量の約 3 倍にもなるという予測です。自然を目にする機会が、急速に減っていくといっても過言ではないでしょう。

自然と人間は不可分です。人間の罪が戦争を引き起こし、戦争は大地を荒廃させます。又人間の欲望が森や林を乱開発し、鉱物や石油を大地から掘り出し、その結果大地は汚染されます。聖書には、大地の荒廃の中に人間の罪を見るといいます。「いつまで、この地は乾き、野の青草もすべて枯れたままなのか。そこに住む者の悪が鳥や獣を絶やしてしまった」（エレミヤ 12:4）。

現代では熱帯雨林が乱開発により死滅しつつあるといわれます。地球上の酸素の 30% を供給し、「地球の肺」と言われる熱帯雨林の消滅は、生命にとって生存の危機をもたらします「人間の罪により自然が破壊されている」という視点は、何も熱帯雨林の問題だけではなく地球規模の環境破壊が進む大事な言葉です。しかし聖書には人間が贖われることによって、自然もまた回復することが出来るといわれています。

中村 哲氏（九州大学 YMCA メンバー、2019 年召天）は、仲間と哲学や聖書に触れて、人間の心の問題や精神に興味を持ち、パキスタン・アフガニスタン国境の町ペシャワールのハンセン病患者の治療のために派遣されました。しかし、いくら治療しても患者は減らず、逆に増えて行く現実の中で、今必要なことは医療よりも、病気の原因である飢餓と不衛生な水の摂取を減らすことだと、井戸を掘り、衛生的な水を供給し、水路建設を行って砂漠を農地にすることを使命としてきました。インダス川支流から水路を引き「死の谷」と呼ばれた砂漠は、今では緑の地が変わっています。彼にそうさせたのは、「キリストを信じるだけでなく、キリストのために苦しむことも、また恵みとして与えられている」（ペリピ 1:29）という信仰だったのです。収穫の秋を迎えます。この自然や大地が、子ども達の世代にもいつまでも続くことを願ってやみません。

年主題 「ともにつむぎだす」～希望の中で～

11 月	乳児（0,1,2 歳児）	幼児（3,4,5 歳児）
月主題	ありがとう	ありがとう
月の願い	* 秋の実りを喜んで味わう * 保育者の祈る姿を通して、思いを感じる	* 秋の実りに感謝し、味わう * いろいろな人の働きを心にとめる * 気持ちや考えを伝え合い、分かち合いながら友だちと過ごす
	おほしがひかる	あなたの平和の <聖歌週増補版 I>